



令和4年8月26日(金) in 東京・立川

第50回全国消防救助技術大会

50th National Rescue Meet in TOKYO



ロープブリッジ 渡過出場

古川消防署
消防士

堀江 大

大規模災害における実際の救助対応と、有事に備えて日々技術向上に励み、宮城県代表として出場の切符を勝ち取った消防救助の全国大会について特集します。

～ 今回のトピックス ～

第50回全国消防救助技術大会に

大崎消防本部の隊員が出場！・・・・・・・・・・・・・・・・P2～3

令和4年7月の記録的な大雨と消防本部の対応状況・P4

2022.10.1

特集号



第50回 全国消防救助技術大会 宮城県代表 古川消防署 堀江大 出場

全国消防救助技術大会とは、

全国各地から選り抜かれた救助隊員が一堂に会し、日頃鍛え抜いた消防救助技術を競い合う大会であり、陸上の部と水上の部に分かれ、隊員一人一人が基本的な技能を錬磨する「基礎訓練」と、隊員個人の技能とともに隊員間の連携を錬磨する「連携訓練」があります。

昭和47年から毎年、全国各地で開催していましたが、令和2年と令和3年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となり、3年ぶりに開催された今大会は、50回目となる記念大会となりました。

令和4年8月26日（金）に東京都立川市で行われた大会には、

各都道府県の予選を勝ち抜いた

精鋭約2500人の隊員が参加する中、宮城県代表として古川消防署特別救助隊に所属する堀江大隊員は、陸上の部の基礎訓練である「ロープブリッジ渡過」に出場し、見事、入賞（タイム19・3秒）を果たしました。これは、大崎広域消防本部発足50年の歩みの中で、3人目となる快挙であります。

「ロープブリッジ渡過を始めて5年目を迎えました。ここまですでに憧れの先輩を必死で追いかけて一心不乱に訓練に打ち込みました」と話す堀江大隊員。また、

「これまでの訓練を通じ、失敗や成功を含め、たくさんの方から学びました。この経験を後輩

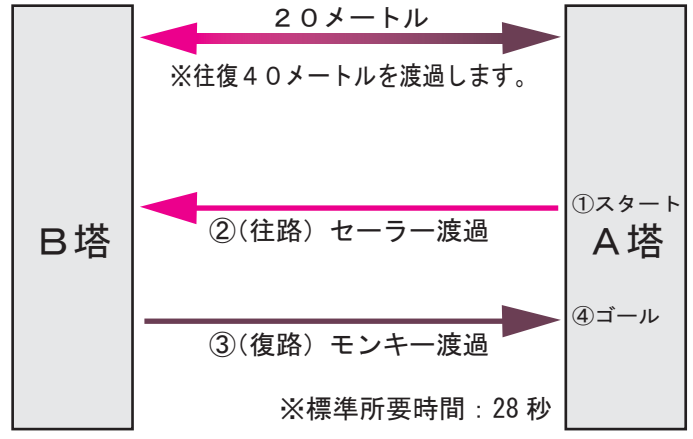
へ伝えていきたいと思っています」と目を輝かせています。

大崎広域消防本部としては、このような大会出場を通して、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨し、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養い、圏域住民の消防に寄せる期待に力強く応えられるように努めてまいります。



ロープブリッジ渡過 訓練の解説

A塔とB塔の間に、地上7メートルの高さに張られた20メートルのロープを、往復する渡過訓練です。



往路はセーラー渡過(ロープの上を体に乗せて、腕力を使いながら渡る技術)、復路はモンキー渡過(ロープにぶら下がった状態で、両手と両足を交互に動かしながら渡る技術)を行います。



復路：モンキー渡過



往路：セーラー渡過

祝入賞 19秒3



古川消防署 特別救助隊 堀江大 (31才)

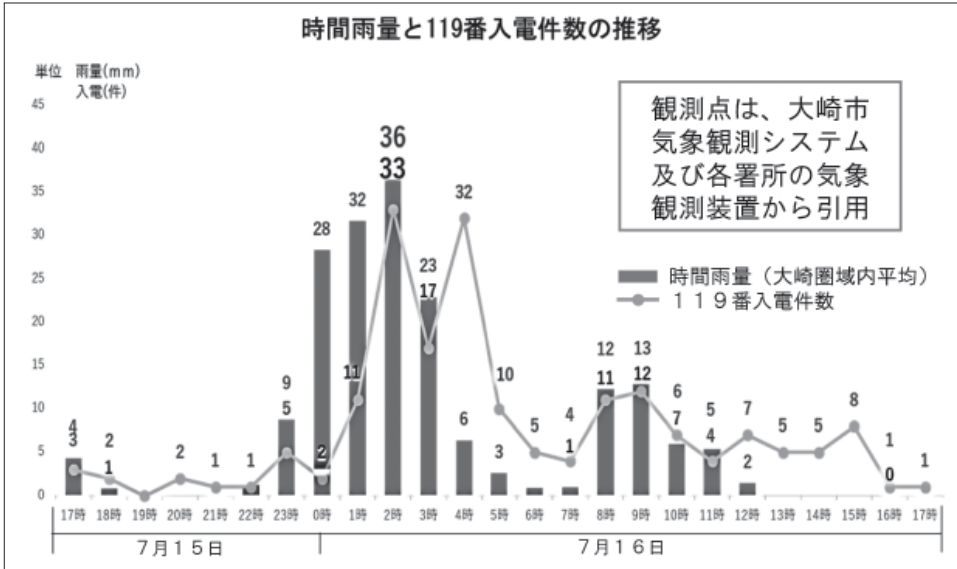


この訓練の機会を与えてくださった同僚や先輩方に感謝します。

7月の宮城県指導会で全国大会の出場切符を手に取り、宮城県代表として意識し緊張感を持ちながら全国大会に向け基礎トレーニングと訓練を積み重ねました。

全国大会では、地域の方々に対する日々の感謝の気持ちと、自分に負けない気持ちをモチベーションに出場し、全国の消防隊員と肩を並べ、入賞できたことは、自分の一生の財産です。

令和4年7月の記録的な大雨と消防本部の対応状況



7月15日から16日にかけての大雨により各地で道路の冠水や堤防の決壊、河川の越水など被害が多数確認されました。
左のグラフは24時間の大崎圏域内における時間雨量と119番入電件数の推移を表したものです。7月15日の23時過ぎから雨量が急増し、入電件数の増加がみられました。入電件数は1時〜4時台に集中しており、一旦は

災害出動状況

単位：件・人

市町	出動件数	救出事案	救出人数	延べ出動隊数	延べ出動隊員
大崎市	41	20	96	49	152
加美町	4	2	5	4	15
美里町	3	1	11	5	13
計	48	23	112	58	180



消防隊・消防団の活動状況 (河北新報社提供)

落ち着きましたが、8時〜9時台の雨量増加と比例し、再び増加しました。入電内容の多くは、「道路が冠水して車から出られない」「家が浸水して避難ができない」などでした。
この大雨では、48件の災害出動要請がありました。出動先では、隊員の腰ほどまで浸かる水深の現場もあり、活動に際しては消防団と連携を図り、ボート等を使用しながら、救助を求める住民を安全な場所に救出しました。
大崎広域消防本部としては、自然災害が頻発・激甚化の傾向にある中、今後このような災害が予想されることから、構成市町及び消防団等との連携協力を深め、なお一層の災害対応力の向上に努めてまいります。



7月17日新聞掲載記事 (河北新報社提供)



名蓋川決壊による大崎市古川地区の浸水状況 (宮城県防災ヘリコプター管理事務所提供)

このたびの災害において被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。